

静岡県立浜松西高等学校及び中部部 学校訪問報告

日 時 平成25年11月1日(金) 10:00~12:00

訪問者 伊佐治正浩 矢嶋崇顕

回答者 鈴木副校長

1 学校の状況

(1) クラス数と校舎

- ・1学年は中部部4クラス、高校6クラス。つまり高校から2クラスの募集。学校全体で30クラス。
- ・5階建ての校舎の中に高校と中部部が共存している。同じフロアで中学生と高校生がうまく融和して生活をしている。もともと1学年10クラス規模の学校(校舎)であったため、現在6学年で30クラスを収容できている。増築などはしていない。

(2) 中学からの進学者と高校からの進学者の違い(生徒の学力、教育課程など)

- ・中部部へ入る時には適性検査として基礎学力を問う総合問題を課し選抜している。倍率は3倍以上。
- ・現在中部部で数学のみ「先取り学習」をしている(数研出版の中高一貫用テキストを使用)。
- ・高校から入学する生徒(外進生)80名の内、約2割(16名程)を部活動に重点をおいた独自の選抜をしている。
- ・高校1年次は内進生と外進生を混合したクラス編成にはしない。2年次より混合する。
- ・高校より特進クラスを各学年1クラスずつ作っている。ただし、1年生は内進生のみで特進クラスを作る。また2年生からは文理融合の特進クラスにし、選択科目によって対応している。
- ・外進生は入学後、数学のみ0.5単位余分なカリキュラムにしており、内進生に進度が追いつくように指導している。また外進生には土曜講座の受講を勧め、進度調整をしている。
- ・高校入試の倍率は1倍を少し超える程度で、募集広報活動を熱心に行っている。

(3) 生徒の通学地区

- ・浜松市内から通学する生徒が大半であるが、中には新幹線を使って遠距離通学している生徒もいる。

(4) 中学・高校間の交流(会議、特別活動など)

- ・職員室は1つであるが、高校の先生と中部部の先生は分かれている。職員会議は合同で行う。
- ・校長の下に副校長1名、教頭が高校と中部部に1名ずつ配置されている。
- ・高校籍の教員の中で中部部の授業を持ち、同時に担任も中部部1年生から持ち上がる先生が英語と数学に3人ずついる(各学年1人ずつ)。中学籍の教員で高校の授業や担任をする先生はいない。
- ・中部部、高校は基本的に別々に部活動をしている。

2 設置による影響について

- ・周辺には私立の学校が少ないため、中高一貫の浜松西高校・中部部への地域の期待は大変大きい。
- ・中部部を修了後、他の高校を受検する生徒はほとんどいない。浜松西高校への信頼・期待が非常に強いと推測される。

3 その他

- ・保護者の学校への期待が大きい。
- ・小学校への募集・広報活動は基本的には行わない。

4 主な進学実績(卒業生数6クラス約240人)

(1) 平成25年度: 東大6, 静大17, 名大7, 京大2, 阪大3 など

旧帝大+一橋大、東工大、神戸大=28。国公立大計122。国公立大医学科8。

(2) 平成24年度: 東大6, 静大20, 名大7, 京大4, 阪大3 など。

旧帝大+一橋大、東工大、神戸大=28。国公立大計120。国公立大医学科8。